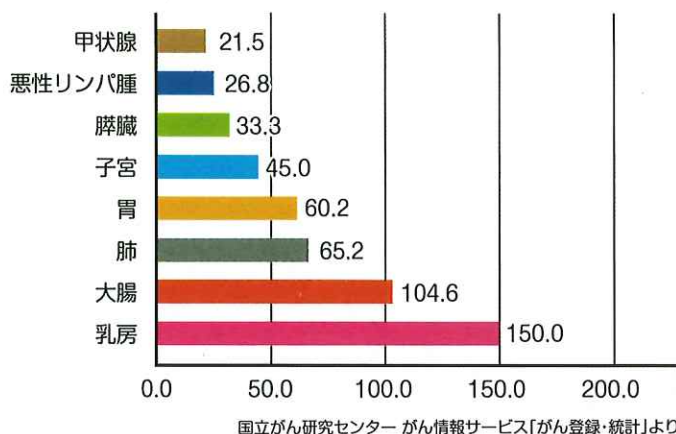


乳がん検診のおすすめ

●乳がんは女性がかかるがんで最も多いことをご存知ですか？

部位別がん罹患率(女性2019年)



国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」より

2021年部位別がん死亡者数(全国・女性)

女性	部位	人数
1位	大腸	24,338
2位	肺	22,934
3位	膵臓	19,245
4位	乳房	14,803
5位	胃	14,428

国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」より

乳がんは女性がかかるがんで最も多く、2021年のデータ(全国)で見ると、14,803人が乳がんが原因で命を落としています。

●早期発見・治療で治る病気です

早期乳がんの場合、5年生存率(乳がんの手術を受けた患者さんが5年後に生存している確率)は90%以上になっています。マンモグラフィによる検診の場合、発見されるがんの7割は早期がんです。検診を受けて早期発見、早期治療によって、乳がんの死亡率は減らすことができます。

ブレスト・アウェアネス

(乳房を意識する生活習慣)

乳房の状態に日頃から関心を持ち、乳房を意識して生活することで、乳がんの早期発見・診断・治療につながる、女性にとって非常に重要な生活習慣です。

以下の4つのポイントを実践しましょう



自分の乳房の状態を知る

着替えや入浴などの際に乳房を見て、触って、感じましょう



乳房の変化に気をつける

しこり、乳頭からの分泌物、乳頭・乳輪付近のただれ、くぼみ、引きつれ、痛みはないでしょうか



変化に気づいたらすぐ医師に相談する

迷わず、すぐ受診し、早期に適切な診断(良性のこともあります)をしてもらいましょう



40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

現在、乳がん死亡率減少効果が証明されている検査方法はマンモグラフィのみです



公益財団法人 秋田県総合保健事業団

県北健診センター TEL 0186(63)1837

中央健診センター TEL 018(823)1520

県南健診センター TEL 0187(73)6200

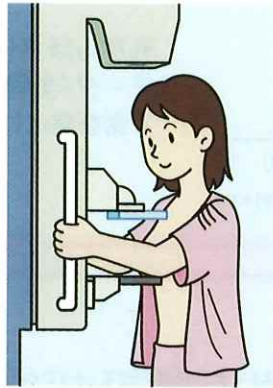
乳がん検診はこうして行います

受付

問診…気になる症状があればお申し出ください

マンモグラフィ検査

乳房のX線撮影のことをマンモグラフィと呼んでいます。乳房を撮影装置の検査台にのせ、プラスチックの板ではさんで圧迫し、厚さを均等にすることでがんを発見しやすい写真を撮影します。撮影時に痛みを伴うこともありますが、我慢できなければ撮影技師に伝えてください。



異常なし

異常あり

必ず受診してください

精密検査

異常なし

良性疾患

がん

次回の検診

経過観察

治療

妊娠している方、妊娠の可能性のある方は検査を受けることができません。V-Pシャント施行者、CVポート留置者、ペースメーカー装着者、豊胸術実施者は医療機関で受診してください。乳がんの診断を受け治療を継続している方は検査の対象外となります。

問診では、現在の症状、月経、妊娠及び授乳等に関する事項、既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況などについてお聞きします。

「要精密検査」の結果が届いたら…

精密検査は、**精検依頼書**と**健康保険証**をもって必ず専門医療機関を受診してください。精密検査では、マンモグラフィの追加撮影や超音波検査、細胞診、組織診を行います。

超音波検査

乳房に超音波をあて、組織からの反射をとらえて画像にし、わずかな濃度の違いで病巣を診断するものです。しこりとして触れない小さな腫瘍も映し出します。

細胞診

しこり(腫瘍)に直接細い注射針を刺して吸引した細胞や乳頭からの分泌物を、顕微鏡で観察します。

組織診

組織診では、細胞のかたまりを取り出すため、細胞診より確実な診断を得ることができます。

精密検査の結果は自治体と関係医療機関で共有し、検診の精度向上に努めています。

月経前や授乳中の方は乳腺が発達しているので、正常な乳腺の影が濃くなってしまい、異常所見がわかりづらくなってしまうため正しい評価ができないこともあります。

検診ですべてのがんが見つかるわけではありません。また、がんでなくても検診の結果が「陽性（要精密検査）」となる場合もあります。しかし、マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がんの死亡率・罹患率を減少させる有効性があります。

早期発見のために、40歳以上の方は必ず2年に1度、定期的に検診を受診してください。

なお、気になる症状がある場合は次の検診を待たず、すぐに専門医を受診しましょう。